

# 河西便り

2023.3.7

第3月号 令和5年3月卒業式  
河西中学校

<教育目標> 「自主的でたくましく、心豊かな生徒の育成」

<令和4年度卒業式にむけて>

河西中学校第76期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

今日まで陰となり日向となり手塩にかけてお子様を育ててこられた保護者の皆さんのお慶びは、如何ばかりかと推察いたします。これまでのご苦勞に敬意を表すとともに心よりお祝い申し上げます。

中学校生活は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、行事が中止や簡略化され、学校生活にもさまざまな制限がかかりました。最終学年での行事を十分な形で実施してあげられなかったことを残念に思います。

さて、日本は今、新型コロナウイルス感染症だけでなく、高度情報化社会の進展や経済の急激なグローバル化、少子高齢化による人口減少など、私たちの生活に大きな変化をもたらす課題を抱えています。

そのような時代を皆さんが力強く生き抜くために身につけてほしい資質の1つに、「レジリエンス」があります。「レジリエンス」とは、回復力とか、立ち直る力という意味で使われています。

この「レジリエンス」をはなむけの言葉として贈ります。

一昨年前、宇宙に飛び立ったスペースシャトルにつけられた名前がこの「レジリエンス」でした。「新型コロナウイルスで苦しむ世界が元に戻るための力になりたい」という思いを込めて、4人の宇宙飛行士が相談して決めたそうです。その1人の野口聡一さんは、24年間の宇宙飛行士生活で「宇宙船に名前をつけたのは初めて」というぐらい、この名前に託した復興への強い願いを感じます。

「失敗を恐れずに何事にもチャレンジしよう」というのは、よく言われますが、私は、それと同時に、失敗から立ち直る力、回復する力、つまり「レジリエンス」を皆さんに身につけてほしいです。そのために、心にとめてほしいことが4つあります。

一つ、成果が現れなかったときは、「自分に才能がなかったからではなく、自分の努力が足りなかったからだ」と反省し、再び立ち上がること。「努力に勝る天才なし」という言葉があります。粘り強く努力した結果、才能が開花するのです。自分の可能性を信じて努力を続けてください。

二つ、失敗したことを悩んだり、悔やんだりしても、結果それ自体は変わりません。それは、やらなくてもよいことです。やらなければならないことは、次に備えて改善策を模索すること。いち早く気持ちを切り替えて、前に進むことです。

三つ、家や学校、職場で叱られたときには、叱ってくれている人の思いを汲み取ること。あなた方の成長を期待しての叱責です。また、叱られることで、心が鍛えられ、「折れない心」がつけられるのです。

四つ、失敗しても、他人のせいにはせずに、自分自身にしっかりと指を向け、自己と向き合って考えること。他人のせいにした瞬間に自分ごとではなくなります。世界のなかでたった一人の自分を育てる責任者は、あなた自身です。もう一人の自分と対話し、失敗から学んでください。

野口さんは55歳になっても、この空のはるか彼方で、この瞬間も命をかけて人類のための研究を続けています。卒業生の皆さんにはこれからの人生において、「レジリエンス」を高めながら、心が折れることなく、諦めずに目標に向かって歩いてほしいと心より願います。

<県教委、市教委訪問、学校運営協議会訪問授業風景>

2023.2.16~17



<第61回全日本学校歯科保健優良校奨励賞並びに優秀職員賞を受賞しました>

2023.2.4



<3月行事予定>

- 3月8日(水) 第76回卒業証書授与式
- 3月9日(木) 公立高等学校入学者選抜検査
- 3月10日(金) 公立高等学校入学者実技検査
- 3月17日(金) 公立高等学校入学者選抜合格発表
- 3月24日(金) 3学期終業式